

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	株式会社 福岡総研		
事業所名	鍋島紀水苑 さくら		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992番地1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季を通して、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活の支援を理念としている。食器にもこだわり有田焼の源右衛門、深川等を使い佐賀の文化を取り入れている。おやつ時間を大切にし和、洋と丁寧おもてなしを心がけている。広々とした庭で好天日にはレクリエーションやおやつ時間など野外活動が出来る。食事の面では新鮮な野菜など1日30品目以上の食材を使った献立で見た目にも完食されるように工夫している。日当たり風通し共に大変よく生活環境にも配慮している。春は近くに桜並木があり居室からも遠目に眺める事が出来、秋には苑庭で紅葉狩りが出来る。バルーンの様子は沢山飛んでくる事が有り、楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市郊外の北西部に位置した田園地域の中にあり、北に天山を望め、春には桜並木が美しく、園庭も広く四季を感じる事ができる草木があり、広々とした眺望を望める。開設して10数年となるが、室内は清掃も行き届き、整理整頓がなされ、管理者や職員の入居者個々に合わせた細やかな心配りが感じられる。食事は自慢の一つで職員が新鮮な食材を求め、旬の野菜や果物等取入れ、栄養バランス、彩、味に気を配り、日々手作を行っている。また、食器も上質なものをを用い、穏やかな雰囲気の中で食事やお茶が提供されている。入居者家族など訪問者も多く、時期に応じた催し物や音楽会など家族、関係者、地域の住民などを招待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアが常に出来るように玄関、ホールに理念を掲げ職員皆で共有し実践している。	理念は玄関やホールなど、人目に付くところに掲げている。入職時、管理者より個別に説明し、朝のミーティングや月1回の会議の時など振り返りを行い、管理者・職員共に共有し、日々介護の中で実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がいつでも立ち寄れるように声掛けしている。ご近所からの野菜の差し入れに利用者が喜ばれている。	自治会に所属し、年1回開かれる地域の総会に欠かさず出席され、ホームの現状を伝えられている。地元の職員もおおり、その関わりの中で催し物など招待し、地域との交流が心掛けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年自治会総会(5~60名)におたっしや本舗鍋島とともに出席し介護、認知症について話をし理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に自治会長、民生委員に出席を依頼し、クリスマス会には地域の方々々が14~15名参加され、出し物にも積極的に参加されている。	公民館で出前講座が開催され、地域住民、民生員、地域包括支援センターの職員の参加があり、意見交換をする中で運営に活かされている。年6回の開催の記録はきちんと整備され、玄関の誰もが目にする所に設置されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おたっしや本舗主催の会議には出席し、日頃から問い合わせ等頂いている。	運営推進会議や地域包括支援センター主催の地域ケア会議などに参加されており、日頃から交流されている。随時、相談可能で、協力関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	数年前の施設殺人事件以来家族からも施錠依頼あり気を配っている。	現在、車椅子の抑制ベルトが使用されている。ホームでは身体拘束についてのマニュアルが備えられ、身体拘束に頼らないケアの検討がなされているが、記録の整備が十分とはいえない。	身体拘束実施時の書類の整備や、身体拘束に頼らないケアの検討を継続することで、短時間からの解除など、身体拘束に頼らないケアの取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月スタッフ会議、勉強会で取り上げ意見交換をしている。又、市の研修会には参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度利用者があり職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。又改定時は丁寧に説明し必ず同意書を貰っている。解約は利用者の申し出に沿って行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり相談に乗ったり、話し合いをしている。勤務年数長い職員多く家族とも信頼関係が出来ていて、色々な相談にも乗っていて、家族のような関係が出来ている。	家族などが投函しやすい所に意見箱が設置され、訪問時に、本人や家族の意見や要望の聴き取りに努められている。遠方の家族には、毎月写真付きの便りを送り状況を伝え、出てきた意見や要望は、できるだけ反映できるように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議に出席し意見を聞き尊重している。又、年2回懇親会を設け意見交換をしている。代表者は職員の職務姿勢に感謝し職員の意見に沿うように努めている。	管理者は個々の職員の意見を聞く姿勢に努められている。毎月の会議や引継ぎ時、職員の意見を参考に運営に関すること、備品購入、勤務体制など出来る改善は取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者家族と信頼関係を築き職員がケアし易い環境を整える事を常に考えている。昼休みはスタッフルームソファ等からだを休ませ午後からの仕事がしやすいように気遣っている。常々定刻に帰宅するように声掛けをし、殆んど守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にはいつでも参加できるように促している。参加費は内容に応じ助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズ同志で交流研修があり、本部での勉強会で発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を真剣に聞きとり、安心・信頼が保てる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をし、負担の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向要望を確認し、収集分析した情報、原案を検討し要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除、食事の準備、片づけ、洗濯物干し、たたみ、等自分で出来る事は時間がかかってもして頂いている。時にレクリエーションのリーダーになってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は居室で過ごして頂き、自宅でくつろいでいるような雰囲気づくりをしている。苑のもてなしの心にも配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使っていた馴染みの物を持って来て頂いている。又家族、親せきの方が面会に来易い様な雰囲気作りをしている。	自室に思い出の写真を飾ったり、知り合いや家族が訪問しやすいように心掛けている。来訪者には、居室でゆっくり過ごしてもらえよう、お茶やお菓子を出すなど、雰囲気づくりに努められており、関係が途切れないように工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題がある時は職員が間に入り他の事をして貰ったり、気分転換を図ったり席替え等臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に為退去されても、見舞いに行ったり、家族が遊びに来られたり連絡されたりと、今でも関係が続いている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族との対話を重ね一人ひとりの意向や希望の把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者の場合は、生活歴やご家族の話を参考に思いを汲み取る様にしている。	入居者は意思表示ができる方も多く、本人・家族と日頃の関わり中で、思いや意向を聞き取るように努められている。把握した意向は介護計画にも反映され、実践につながるよう工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との対話を重ねる事により、これまでの生活歴の把握に努めている。また、入居前には前事業所に訪問し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者と個別に関わる時間の確保に努めている。出勤日以外の事は経過記録やスタッフからの聞き取りで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議に参加出来ないご家族、主治医などからは事前に要望等を伺っている。月一回のスタッフ会議時にあわせて担当者会議を開催し、チームで計画書を作成している。	家族の面会時、聞き取りに努め、毎月モニタリングを行っている。面会のない家族には書面を郵送し、内容確認をお願いしている。本人・家族の参加の上、担当者会議を開催し、意向を反映したプラン作成に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動のみの記録になりがちなので、ケアの実践、結果、気づきが記録できるよう、月1回のスタッフ会議でスタッフに周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護ステーションより通院介助あり。サポート事業を活用しレクリエーションなどを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回の推進会議に地域の方々に参加して頂き交流を図っている。クリスマス会には多数参加して頂き余興にも協力頂いている。消防士OBには会議で指導して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診が家族の要望があれば協力医療機関にお願いしている。契約時に決めているが途中変更可能。訪問診療も利用可能。	本人・家族が希望する、かかりつけ医に受診することができる。往診もあり、入居者の状況に応じて医療機関の選択ができる。また、訪問看護との契約があり、適宜、利用されている。医療機関への連絡体制の確認もあり、連携を図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に、僅かな変化も見逃さないように気配りをし、少しの問題点でも看護師や医師に相談している。看護師は24時間体制で毎週金曜日に勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診の医師とは日頃から話し易い関係にあり、相談し易く家族も安心されている。入院時は面会に行き医師、看護師と話をし早期退院を促す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に看取り経験あり。職員も理解できている。現在終末期1名あり。	入所時の契約内容に方針を記載し、管理者より説明を行っている。同意書を取り、入院やホームでの看取りなど、希望に沿っている。また、看取りの経験もあり、入居者家族や職員の不安の軽減に努めた支援体制が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も幾度か経験あり、その都度皆で話し合いスムーズに対応が出来るように、準備の確認をしている。(電話の前にマニュアルを貼っている)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしていてスピーディに行えるようになってきている。ご近所、地域住民との交流もあり、災害時の協力をお願いしている。	年2回、夜間想定避難訓練を消防署立ち合いの下で実施している。懇意にしている地元自治会長が元消防署職員であり、意見や協力を貰っている。災害のための備蓄もなされ、ホームの設備も整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手にこちらの言うことが分かっていると思いつながりながら会話をしている。お年寄りには皆、人生にプライドを持っている事を常に意識しながら対応をしている。	接遇研修など勉強会を行い、言葉遣いなど、優しく丁寧に心掛けられている。また、個人情報など、人目につかない鍵のかかる場所で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望や思い等聞き出し、本心を見極めながら、出来るだけ沿ったケアを心がけている。(個別レクリエーションや服装)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者だけを優先にするとどうしても無理がいき職員の負担も大きくなる為、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけやイベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでオシャレを楽しんで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの1つと考え、好物を聞いたり皆で献立を考えたり、テーブルを囲んで盛り付けなどを楽しんで貰っている。器は有名な有田焼を使い目でも楽しめるように心配りをしている。準備や後片づけなど出来る人には手伝って貰っている。	食事は新鮮な食材や旬の野菜など取入れ、職員が手作りし、上質の食器が用いられている。また、入居者にできる手伝いもお願いしている。入居者の好みを取り入れ、ホームの催し物の時など、特別メニューを出し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では1日30品目目安の献立で完食できる量を提供している。水分補給は日々十分行っていて、特に病気の時は量も記録し、全体量をチェックしている。入居時より栄養状態が改善されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしている。それぞれに合った歯ブラシを使用している。2週間に1回の歯科往診あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を見ながら排泄パターンを把握し促す。夜間頻尿者も出来るだけ自力でトイレに行けるように支援している。	日中はトイレでの排泄を基本方針としている。排泄パターンなどを職員で話し合い、入居者の状況に合わせた排泄時間や、パットなど適切な排泄用品の使用を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どがカマグを服用されているが、他には昼食時に毎日ヨーグルトを提供している。マイナス時が続くと牛乳、ヨーグルト、繊維質食物を多く提供している。おなか、お尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は半数ずつ毎日午前中だが場合により午後に変更。	週2・3回、入浴されており、入居者の体調や気分に合わせて声掛けや、日時を調整するなど、柔軟に対応できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居室で休まれたりホールソファで休まれている。昼夜逆転しないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届けられた内容をチェックし名前と日付を入れ、各々1週間分を作り事務所に保管している。小分けした1日分を食堂に準備し、名前、日付を確認して手渡し、飲まれてしまうのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、雑誌はいつでも見られるように手の届く所に置いている。編み物、読書、パズル等好きな事をされる時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出や外出が無理な方には好天気の日には苑庭でお茶の時間やレクレーションを楽しんで貰っている。又、ホール出窓カウンターでお茶の時間を過ごして貰い、出かけた気分を味わって頂く様に工夫している。	入居者個々の身体状況もあり、遠方への外出は難しい方もおり、小人数で季節に応じたドライブや買い物などの外出がされている。毎日少しでも外気に触れられるよう心掛け、テラスや園庭でお茶の時間を設けたり、日光浴等取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事が理解できる方には必要時に家族から現金を渡して貰い、買い物時に本人が支払いをされる。混乱が生じた時は家族に相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を取っていて、要望があればいつでも電話が出来る様に支援している。手紙はできる限り居室で保管して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールの壁を入居者と共に作成した折り紙や飾りで演出している。季節感を取り入れる工夫をしている。室内はとても明るく風通し、日当たり良く、洗濯物、寝具、調理器具等日干しが出来衛生的である。苑庭には紅葉が多く、秋には紅葉狩りが出来る。	室内は明るく開放的な窓が南面にあり、眺望もよ良く、園庭には花木など植えてあり、季節を感じ取れる環境が設えられている。また、室内は清掃が行き届き床板も磨きこまれ、台所の状況もよく見えるなど、居心地良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓以外にも丸テーブルや2人用テーブルがあり又、窓際はカウンターになっていて広い庭を眺めながらお茶を楽しむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し、使い慣れた物を持って来て頂いている。時々交換をお願いしている。	持ち込み制限はなく、個々の本人・家族の希望に沿って設けられている。入居者の身心状況に合わせ、安全にも配慮された環境づくりに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かり易く表示し、居室入口には本人と分かるように写真を貼り、自室を確認して頂いている。		